南小だより　R3．9．21

南　風

＜ 令和３年度　第 10 号＞
発行：玉村町立南小学校
群馬県佐波郡玉村町角渕5011
電話：0270-65-9000
http://www.town.tamamura.ed.jp/minami-e/

分散登校終了、通常登校が再開！

８月３０日（月）からの２週間の分散登校は、各クラスを２つのグループに分け、交互に登校する形をとりました。感染症予防のため、児童玄関では検温と手指の消毒を行ったり、教室では座席の間隔を空け喚起に気を配ったり、給食が再開されると、登校しているメンバーで協力して準備を行い、皆で前を向き静かに食べたりしました。

また、児童用パソコンのミーティング機能を使って、登校している児童、家庭にいる児童ともオンラインによる朝の健康観察を行い、画面越しに互いの元気な顔を確認しました。試行的に６年生の１校時の授業（英語）をオンライン配信し、家庭にいる児童もパソコンの画面を通じて先生の指示や板書・電子黒板の映像を確認したり、マイクを使って質問に回答したりして、一緒に授業に参加しました。

＜オンライン健康観察＞

＜オンライン授業(６年英語)＞

＜分散登校中の給食＞

保護者の皆様には、登下校する児童の見守り、登校日ではない児童のご家庭での対応、オンライン通信の補助など、様々な点でご協力くださり、誠にありがとうございました。

９月１３日（月）より通常登校が再開され、約８週間ぶりに皆が教室で顔を合わせることができましたが、９月３０日（木）まで本県への緊急事態宣言が延長されておりますので、引き続き感染症予防対策をとり、工夫をしながら教育活動を進めていきたいと存じます。何卒、ご理解・ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

学校行事の予定について

緊急事態宣言を受け、２学期の教育活動の一部が延期や中止となっております。10 月以降の学校行事についても、感染症の拡大状況により実施可否の検討をしていきたいと存じます。詳細については、今後の通知や学年・学級通信などでお知らせいたします。

＜当面の予定＞

１０月　１日（金）	４年遠足	「富岡製糸場・自然史博物館」見学予定
１０月　７日（木）	３年遠足	「ぐんま昆虫の森・大間々博物館」見学予定
１０月　８日（金）	就学時健診	新入学児童対象　※６年生のお手伝いは事前準備のみ
１０月１４日（木）	郡陸上記録会	県陸上記録会とも中止　※三種競技ﾁｬﾚﾝｼﾞに代替予定
１０月２０日（水）	５年社会科見学	「上毛新聞印刷工場・織物参考館」見学予定
１０月２１日（木）	２年遠足	「桐生が丘公園（動物園・遊園地）」見学予定
１０月２２日（金）	運動会	低・中・高学年ブロック別、簡略化にて実施予定
１０月２７日（水）	１年遠足	「ぐんまフラワーパーク」見学予定
１１月4･5日（木･金）	６年修学旅行	長野方面（上田・松本・長野）へ変更し実施予定

子どもが進んで勉強をするようになる2つの方法

子どもが勉強をしないのは、親が「勉強しなさい！」と言ってしまうことが原因の一つ、というのは書籍『ぐんぐん伸びる子は何が違うのか？』の著者である石田勝紀さん。学習塾を運営し長年多くの子どもたちを見てきた石田氏が提案する、子どもが自ら勉強に取り組む方法とは一体どんなものなのでしょうか。

勉強しない子に頭を抱える親はいつの時代も多いものですが、勉強をするように促すには、どのような方法が効果的なのでしょうか。書籍『ぐんぐん伸びる子は何が違うのか？』の中に、親が「勉強しなさい」と言うことで思わぬ弊害があるとあります。『「勉強しなさい！」と言われて「はい、勉強します！」と言う子どもはいません。それよりも、むしろ「勉強とは嫌なことである」という意識をインプットしてしまう可能性があるとあります。命令的な指示は効果が出ないばかりか、逆効果になる可能性も秘めているのです。』

逆効果になるとは、胸に突き刺さる言葉ですね……今までそのような声かけをしてきた場合、勉強しない子どもに「勉強しなさい」と言ってはいけないとなると親にもストレスがたまりそう。この言葉に代わる方法は２つあるそうです。

１．「勉強しなさい」から「やるべきことをやりなさい」に言い換える

まず 1 つ目の方法は、今まで「勉強しなさい」と言っていたところを「やるべきことをやりなさい」と言い換えることだそうです。

『親は子どもにとって教師ではないので、子どもは無意識のうちに親から勉強のことを言われることを嫌っています。しかし、人としてあるべき行い（道徳や倫理観など）は親から言われても、うるさいと思いながらも無意識に受け入れてしまうものなのです。ですから、「やるべきことをやる」という言葉には、道徳的観念があるので、子どもは反発できません。』

確かに子どもの頃を振り返ってみても、親から「勉強しなさい」と言われると腹が立ったことがありました。「やるべきことをやりなさい」ということで、子どもも自分にとって今やるべきことは何なのかを考えるきっかけになりますね。

２．「子ども手帳」を使う

２つ目の方法は、子ども手帳を使うことだそうです。手帳と言っても特別なものを用意する必要はなく、市販の手帳やノートにやるべきことを書き込み、やり終えたら赤ペンで消すだけという、いたって簡単な方法です。

学校の宿題や塾の宿題など、日々やるべきことはだいたい決まっているにもかかわらず、自らこなすことができない子どもが多いのは、「勉強」という“面倒で魅力的でない作業”に子どもの心が向かわないためだと著者の石田氏は言います。

『心を勉強に向かわせるために、「子ども手帳」が登場します。子どもに手帳を持たせることは早いと思われるかもしれませんが、実際に「子どもたちに手帳を持たせて、そこにやるべきことを書かせ、終わったら消す」という簡単な作業をさせるだけで、従来の勉強しない状態から“やる状態”へと、180 度転換するようになるから不思議です。』

さらに、子どもたちのモチベーションを引き出すために、1 つの行動が終わったらそれをポイントに換算するというポイント化も有効のようです。何ポイントかたまったらご褒美につなげるなど、子どものモチベーションを高めるやり方を導入してもいいですね。

この手帳の目的は、勉強を習慣化させて当たり前にさせることだとあります。日々の予定をこなせばポイントにつながるのであれば、モチベーションは高まるとのこと。こうして習慣化された勉強は結果を生み出すようです。ぜひ、参考にしてみてください。

（以前の「南小だより」から再掲）